

国際開発と貧困問題

2単位

担当教員: 雨森 孝悦

貧困緩和や国際的な開発の在り方について、実際の活動事例や身近な題材を通じて考える機会をもつ

講義目的・到達目標

途上国の人々や国際社会の視点から、貧困緩和に向けた活動を理解する

市場における活動を通じて貧困を減らす方策について、その限界も含めて理解するのがこのスクーリングの大きな目的である。グローバル化や規制緩和を背景として、世界では市場を通じた経済活動が活発になり、極度の貧困に陥っている人は減少している。しかし、新興国の内部での格差はむしろ拡大している。その一方で、ビジネスを通じて貧困から抜け出せるようにしようという大きなうねりもある。こうしたことを、途上国の人々の視点や国際社会の動きから理解できるようにすることを目指す。

国際開発を私たち自身の課題としてとらえる

世界では、水不足や食料問題などが貧しい人々を直撃している。グローバル化の進む中で、そうした問題に私たちの生活も関わっている。問題や人々の間のつながりを理解し、われわれ自身の課題としてどのように取り組めばよいのか、手がかりとなることについてみんなで考える。

講義の構成

講義の流れ

このスクーリングでは、初日に国際的な文脈での貧困について理解を深め、貧困削減の戦略や進捗状況について検討する。次に、マイクロファイナンスと呼ばれる貧困層向けの融資・貯蓄などの具体的な活動をみていきながら、その長所や課題についてグループ学習を通じて突っ込んだ議論を行う。

2日目は、貧困や環境などグローバルな問題に私たちもかかわりをもっていることを講義を通じて理解し、共に生きることのできる国際社会に向けて何が必要かをグループで考える。

講義のポイント

発展途上国の人々も我々とおなじように、賢かったりずるかったりするが、懸命に生きていること、人々のそうしたバイタリティを生かすような仕組みをつくることで、世界の貧困を減らせないかということを追求していきたい。

1 どういう課題があるか

2 なぜ、問題が生じているか

3 私たちとどうかかわっているのか

4 どういう対策があるか

5 自分たちに何ができるか

受講するにあたって

- ①事前学習の
すすめ 参考図書を事前に読んでおくと理解が進むので、できるだけ読んでおく。
- ②参考図書 A.V.バナジー&E.デュフロ『貧乏人の経済学』みすず書房、2012
J.モーダック他『最底辺のポートフォリオ』みすず書房、2011
森壯也編『途上国障害者の貧困削減』岩波書店、2010
- ③評価基準 記述式で2題、出題の予定。すべての設問に的をはずさず答えていること、たんなる感想ではないこと、自分に引き付けて感想を述べている場合でもよく考えられており、次につながるような解答であること。
- ④より学びを
深めるために スクーリングのなかで、さらに文献を紹介する。